



西神楽公園キャンプ場

田園風景が広がる丘陵の森の中。自然の息吹がいっぱい。

所在地 旭川市西神楽南1条1丁目西神楽公園内

開設期間 7月1日～8月31日

キャンプ場定員 100名

利用料金 無料

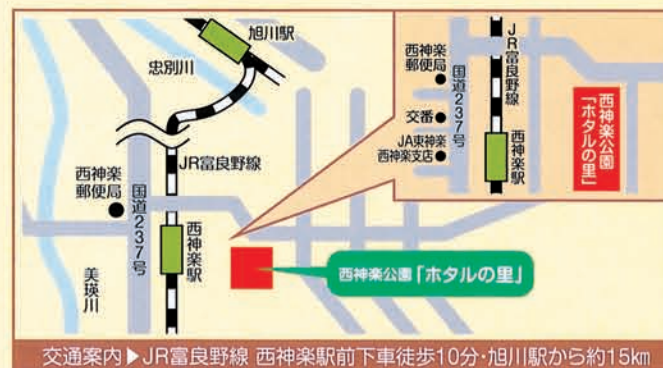
駐車場 公園利用者駐車場あり

申込方法

- ①キャンプ場開設期間中の当日、管理棟に備え付けの使用申込書に記入し、受付箱に投函して下さい。
(所定の申請書があります。)
※申請の際、印鑑は必要ありません。
- ②小・中学生が宿泊する場合は、保護者が同伴することを原則とします。

注意事項など

- ①指定された場所以外では、テントの設営、火気の使用はできません。
- ②キャンプファイヤーはできません。
- ③公園内(キャンプ場を含む)に車両(バイクを含む)を乗り入れることはできません。(必ず駐車場に止めて下さい。)
- ④炊事場や他の施設、用具はみんなが使用する物です。お互い譲り合いながら大切に使用して下さい。
- ⑤周辺の民家や他の団体のことを考えて、夜遅くまで騒がないようにしましょう。
- ⑥「ごみ」の持ち帰りにご協力ををお願いします。



交通案内▶JR富良野線 西神楽駅前下車徒歩10分・旭川駅から約15km

問い合わせ先 西神楽パークセンター
住所:旭川市西神楽南1条1丁目 電話:0166-75-3669

監修:旭川市土木部公園みどり課
企画・発行:財団法人 旭川市公園緑地協会
<http://www.asahikawa-park.or.jp>
協力:旭川市西神楽ホタルの会

豊かな自然が、神秘の光につつまれる。

ホタルの里

西神楽公園

西神楽公園の沿革

西神楽公園は、昭和43年3月1日に旭川市と神楽町の合併の際、近隣公園用地として旭川市が引継を受け休憩所、遊具等の施設が設置されましたが、施設の老朽化が進み、平成9年に旭川土地改良区より用地を買収し、再整備(3.2ha)したものです。現在は、キャンプ場のほか2本のせせらぎを拠点に本格的な「ホタルの里」づくりが行われ、人々が自然や環境を大切にすることを願い、ホタルの飼育活動も行っています。

春

夏

ヘイケボタルの一生



羽化したボタルの生命は、およそ10日間で水だけで生活します。体長は、7～10mmでメスがやや大きく、活動は夜で夜行性です。



ボタルの発光は、愛のシグナルです。オスは主に空中からメスを捜し、メスは葉の上などで様々な発光パターンで存在をアピールします。



羽化したばかりの成虫は、4時間かけて透明な羽がのび、色も白色、灰色、黒色と変わります。これがボタルの一生で1年がサイクルです。



シグナルが合うとオスはメスのもとに急行し交尾をします。時には1匹のメスに数匹のオスが群がり、コロニーのようになります。



さなぎは、ゆっくりと成長し、20～30日程で親になり、まゆを割って出てきます。これが羽化です。



交尾を終えたメスは、2～3日の熟成後、約0.6mmの淡黄色の卵をコケなどに産みます。1匹が産む卵の数は50～100個です。



終齢を迎えた幼虫は『さなぎ』になるため陸に上がります。上陸前には、水中の呼吸と変わるため空気に触れる練習を何回か繰り返します。

上陸した幼虫は、土や砂などで「うすらの卵」の形をしたまゆを作ります。その中で最後の脱皮をして『さなぎ』になります。



卵は気温が高ければ2週間ほどで孵化します。孵化した幼虫の大きさは1.5mm程です。

幼虫は水の中で暮らし、約1ヶ月で1回目、3ヶ月で2回目の脱皮をして大きくなります。

2回目の脱皮した幼虫を3齢と言い、中央の大きい幼虫は4齢幼虫です。幼虫は水の中で4回脱皮し、終齢(5齢)幼虫となります。

西神楽公園 マップ



桜の広場



キャンプ場



管理棟



西神楽パークセンター

ボタルの飼育施設や旭川市西神楽ボタルの会の事務局があります。



西神楽パークセンター内
ヘイケボタルの幼虫大量飼育装置

約6万匹の幼虫飼育ができ、上陸・羽化・産卵もできます。

夏の夜の飼育装置。何千匹ものボタルが光を放ちます。



林間広場

アカゲラ

エンリス



ボタルのせせらぎ1

全長30mのせせらぎポイント。ボタルのせせらぎ2と共に7月中旬～8月下旬まで自然発生したボタルを楽しめます。

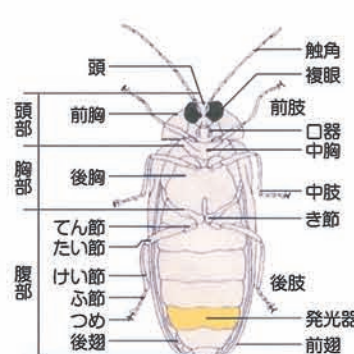


ボタルのせせらぎ2

全長100mのせせらぎポイント。ボタル以外にも昆虫や小鳥、エンリスなどの小動物が楽しめます。

ボタルの形態(各部の名称)

- ボタルは節足動物門に属するので、肢(足)はいくつかの節に分かれている。
- カブトムシと同じ甲虫類に属するので、前翅(まえばね)が硬いさやばねになっている。
- 体は頭部、胸部、腹部に分かれる。
- 頭部には口器、複眼、触覚がある。
- 胸部には3対の肢(足)がある。
- 腹部には発光器があり、オスとメスは発光器で見分けることができる。
- ボタルのオスの発光器は腹部第6番目と7番目の節に、メスの発光器は腹部の6番目の節のみにある。



一生のうち、最後の10日間だけの神秘の光

●旭川のヘイケボタルが観られる時期は7月中旬～8月下旬です。最盛期(7月下旬)には「ボタル祭り in 西神楽」が開催され、この時期は2,000匹以上のボタルが神秘的な光を放ちながら木々の間を乱舞します。

●一般的には1年で成虫になりますが、中には2、3年かけて成虫になるボタルもいます。成虫になってからは1週間～10日間の短い命を精一杯生きます。

ヘイケボタルとゲンジボタルの比較

比較項目	ヘイケボタル	ゲンジボタル
前胸背側の紋	 紋の縦幅が広い	 紋の縦幅が細く、真ん中が○
発光器	 ♂ ♀	 ♂ ♀
体長(mm)	オス約8.0 メス約9.0	オス約15.0 メス約18.0
成虫の季節	7月上旬～8月下旬	5月中旬～7月中旬
産卵数(個数)	50～100	500～1000
卵の直径(mm)	約0.6	約0.5
卵の期間(日)	20～25(気温によって異なる)	25～30(気温によって異なる)
すんでいる場所	水田・池・用水路	河川(流水)
幼虫の餌	カワニナ・タニシ・モノアラ貝等	カワニナ

「ボタルの里」づくりと西神楽ボタルの会

平成7年、旭川市は西神楽公園を「ボタルの飛び交う公園」に改修することにした。それを機会に、かねてからボタルが自然繁殖する「ボタルの里」づくりを夢んでいた地元住民が中心となって西神楽ボタルの会を結成し、市が造成した2本のせせらぎを拠点に本格的な「ボタルの里」づくりを開始しました。



現在、西神楽ボタルの会に所属する160名の会員は、西神楽を拠点に旭川全市にボタルを増やしたいという夢を抱いています。そして、やすらぎと感動を与えてくれるボタルが、子供たちの感性を育むとともに、懐かしい心のふる里となり、また人々の自然や環境を大切にする心の育成にもつながってくれることを願って、ボタルの飼育活動やボタルの里づくりに励んでいます。



「ボタルの里」の成果を発表するボタル観賞会「ボタル祭り in 西神楽」



毎年7月の最終土曜日から3日間の観賞会で約7000人の人々が訪れます。

会員による受付風景。駐車場誘導や会場案内なども行っています。



二つのせせらぎで群がって飛び交うボタルの神秘的な光に観賞客は感動で一杯になります。



産地野菜の直売も会員で行い、楽しいコーナーとなっています。

(財)旭川市公園緑地協会は、旭川市西神楽ボタルの会と共催で「ボタル祭り in 西神楽」を開催しています。

西神楽公園「ホタルの里」

[illegible]

西神楽パークセンター
旭川市西神楽ホテルの会の事務所や
ホテルの飼育施設があります。

＜西神楽パークセンター内ヘイケボタルの幼虫大量飼育装置＞

約6万匹の幼虫飼育ができ、上陸・
羽化・産卵も可能です。

夏の夜の飼育装置。
何千匹ものボタルが光を放ちます。

ホテルのせせらぎ 1
全長30mのせせらぎポイント。
せせらぎ2と共に7月中旬～8月
下旬まで自然発生したホテルを楽
しめます。

ホテルのせせらぎ 2
全長100mのせせらぎポイント。
ホテル以外にも昆虫や小鳥、エゾ
リスの小動物が楽しめます。

Diagram illustrating the anatomy of a fly (ハエ) with labels for various parts:

- 頭部 (Head): 頭 (Head), 触角 (Antenna), 複眼 (Compound eye), 前肢 (Foreleg), 口器 (Mouthparts), 中胸 (Mesothorax).
- 胸部 (Thorax): 後胸 (Metathorax), 中肢 (Midleg), 後翅 (Hindwing), 前翅 (Forewing).
- 腹部 (Abdomen): 発光器 (Glowing organ), つめ (Claw), ふ節 (Gaster), けい節 (Petiole), たい節 (Thorax), てん節 (Tergite).
- Other labels: き節 (Knee), 後翅 (Hindwing), 前翅 (Forewing).

- 旭川のヘイケボタルが観られる時期は7月中旬～8月下旬です。
最盛期（8月上旬）には「ホタル祭り in 西神楽」が開催され、この時期は千匹以上のホタルが神秘的な光を放ちながら木々の間を乱舞します。
- 一般的には1年で成虫になりますが、中には 2、3年かけて成虫になるホタルもいます。成虫になってからは1週間～10日間の短い命を精一杯生きます。

ヘイケボタルとゲンジボタルの比較		
比較項目	ヘイケボタル	ゲンジボタル
前胸背側の紋	 紋の縦幅が広い	 紋の縦幅が細く 真ん中が○
発光器	 ♀ ♂	 ♂ ♀
体長 (mm)	メス約 9.0 オス約 8.0	オス約 15.0 メス約 18.0
成虫の季節	7月上旬～8月下旬	5月中旬～7月中旬
産卵数 (個数)	50～100	500～1000
卵の直径 (mm)	約 0.6	約 0.5
卵の期間 (日)	20～25 (気温によって異なる)	25～30 (気温によって異なる)
すんでいる場所	水田・池・用水路	河川 (流水)
幼虫の餌	カワニナ・タニシ・モノアラ貝等	カワニナ

ヘイケボタルの一生



2回脱皮した幼虫を3齢と言い、中央の大きい幼虫は4齢幼虫です。幼虫は水の中で4回脱皮し、終齢（5齢）幼虫となります。